

# 気づく仕事



著 者： 博報堂 研究開発局  
 刊 行： 2012年4月26日  
 出 版 社： 集英社  
 定 価： 本体1200円+税

## <目 次>

- はじめに一  
 考えるあなたへ、知っておいてほしいこと
- 第1章 「文殊の知恵」は、なぜ3人なのか  
 「気づき」を生み出す「共同脳空間」
- 第2章 組織論から、キラーパスは生まれない  
 「共同脳空間」を展開させるための「運動論」
- 第3章 会議をやめて、打ち合わせをはじめよう  
 「気づき」の感触に触れる
- 第4章 「気づき」の工具箱
- さいごに一  
 「気づく」ことから、「気づかせる」ことへ

博報堂の仕事の本質は、「生活者の欲望を発見し、これを起点にしたアイデアを生み出す」という点にあります。この発見を可能にするのが「気づき」という行為であり、これは博報堂の基本動作、ある種の「体質」のようなものになっています。

「生活者の欲望」を生活者本人によりも先に「気づく」ためには、つねに思考を自由な状態に、固定観念に囚われないようにしておく必要があります。また、職種や役職を問わず、全てのチーム員が同じ土俵に立ち自由に対等な立場で互いの「気づき」を誘発し合あうことが求められます。

固定観念から離れ、チームの力で「気づき」を誘発し合うために博報堂が培ってきた独特の思考の場。これを、本書では「共同脳空間」と名付け、その内容をなるべく平易に、事例を交えつつ具体的に明らかにしました。

本書をご一読いただければ、会社の仕事はもちろんのこと、趣味の集まりでも、あるいは家族の会話やソーシャルネットワークでの意見交換でも、あらゆる場面でここでのやり方・考え方が共通して応用可能であるということに「気づく」ことでしょう。

次をどう見るか？ どう思いつくか？ どう踏み出すか？ 「気づき」は、目の前であなたを待っています。「気づき」がなければ始まらない。そのことに「気づいて」ください。皆さんが「気づき」の力を手にするために、是非本書をご活用いただければ幸いです。

### 博報堂 研究開発局とは

博報堂社員一人ひとりの「気づく力」「考える力」「生み出す力」を触発し、いかにうまく活かすことができるか。そうした視点から、必要な知見や技術、発想法をはじめ、マーケティングやコミュニケーションの方法論などを体系的に研究し、データベースや手法・ツール類のかたちで開発しています。

その中で、博報堂の発想力＝「気づく力」の源泉を「生活者発想」による「チームの力」と位置づけ、これからの世の中に重要で、誰にでも役立つものであるとの認識から、今回書籍のかたちにまとめ「気づく仕事」として発表いたしました。